

今回は言葉の名付け、論理的思考について、練習問題を通して確認しました。クイズ感覚で解けたようでしたが、考え過ぎた問題もあったようです。解答は以下の通りです。

課題A	①右 : 自分が南を向いたとして西にあたるのは右です。 ②雨 : ほぼ全員が同じ答えでした。正解です。
課題B	上から緑・白・赤・青 : この並べ方を見ながら問題文を読みましょう。
課題C	② : ア よしえさんが右から三列目というのは①まり②③のどれかです。 ウ よしえさんととしこさんは同列なので、アはとしこさんにも当てはまりません。 エ としこさんの隣はたけしさんですから、たけしさんは④⑤⑥のどれかです。 オ たけしさんの下にはあきお君の靴箱がありますから、たけしさんは④か⑤です。しかし、④のとなりはまりさんととしこさんではありませんから、たけしさんは⑤です。故にとしこさんは②です。
課題D	「あり」はホ: 昆虫だから。体が頭・胸・腹に分かれるから。長い生き物ではないから。 「あり」はヘ: 飛ばないものの仲間だから。地面を歩く生き物だから。

コメントの追加 [泉1]: ア〜オの解説です。考え違いをしていた人は、この解説をもとに説明文を書いてみてください。

コメントの追加 [I2]: 他の理由で分けた人もいます。具体例の共通化に個性が表れるのが分かったと思います。

コメントの追加 [I3]: 論理的思考力を鍛える問題は本やインターネットで数多く紹介されています。ぜひ挑戦してみましょう。

感想を紹介します。

- ① クイズのような問題を解くのがとても楽しかった。課題 B は色鉛筆で紙に書きながら行ったが、頭の中で考えられるように、このような問題に積極的に取り組みたい。
- ② 課題 C の問題は途中で迷ったが、解けた時には大きな達成感を得ることができた。
- ③ 私は妹がいて「〇〇ってどういう意味？」と聞かれることがあるが、単語の意味は理解できていても文章で説明するのは難しいと思っていた。それは名付けされた言葉でその意味を理解しているから、説明するのが難しくなっていたのだと今回の授業で分かった。
- ④ 名付けることによって長い説明を少ない文字数で表すことができるというメリットがあると改めて感じた。その一方で名付けられた言葉にはいくつかの意味や解釈が圧縮されていると思った。「こと」は名付けが必要であると知らず、何も考えずに使ってきたが、それだと文は明確ではないと知った。今後は別の言葉に書きかえて文を作ろうと思った。
- ⑤ 演繹的思考と帰納的思考の解説を読んでも、一見難しそうに見えたものが、知らずのうちに使ったことのあるものだ気づいた。
- ⑥ 文章表現法の授業は3回目だが、この授業を受けるたびに自分の未熟さが分かるような気がする。知らないことや分からないことだらけなので、授業を通して成長したい。
- ⑦ 自分が何気なく使っていることが実は帰納的思考だということを理解できた。天気予報や性格診断などもこの帰納的思考だということが知ることができてよかった。
- ⑧ 「こと」を使わずに文章を書くのは難しいと思った。今回の課題も「こと」を使わず文章を作れるか、この「こと」は何を意味しているか考えてみた。とても難しかった。

本日は小論文の書き方の基本についてです。教科書で「そもそも小論文とは」の頁から一次原稿の頁を読みながら進めます。

### 1 小論文は論理的構成と言葉の使い方に注意する

基本の文章構成は帰納論理⇒「まとめ」から「むすび」は演繹論理

下の表は教科書にもあります。これが基本の構成と考えます。

構成	内容	キーワードの例
はじめ(2行)	全体のあらましを書く。	お手伝い
なか (7行)	具体例1 感想・意見は書かない。	おふろそうじ
なか (7行)	具体例2 感想・意見は書かない。	くつみがき
まとめ(2行)	具体例に共通する性質・感想を書く。	大変な仕事だ
むすび(2行)	まとめの一般化 (まとめの感想や意見が、全ての人やものに当てはまるという主張)	手伝いは家族の役に立つ

※参考図書： 市毛勝雄 (2010)『小論文の書き方指導』明治図書

教科書の練習1「まとめ」と「具体例」の結びつきが正しいものはどれでしょう。

課題A ①から⑩の中で「まとめ」と「具体例」の結びつきが正しいものはどれでしょう。答えは2つあります。

① おまつりに行った。 おめんを買った。 りんごあめを買った。 おいしかった。	② おまつりに行った。 しやてきをやった。 金魚が3匹すくえた。 楽しかった。	③ おまつりに行った。 焼きそばを買った。 お金を落とした。 楽しかった。	④ おまつりに行った。 焼きそばを買った。 りんごあめを買った。 つかれた。	⑤ おまつりに行った。 たこやきを食べた。 りんごあめを食べた。 つかれたけど、楽しかった。
⑥ おまつりに行った。 金魚を1匹すくえた。 家でゲームをした。 楽しかった。	⑦ おまつりに行った。 こづかいをもらった。 500円だった。 うれしかった。	⑧ おまつりに行った。 焼きとりを買った。 しやてきをやった。 楽しかった。	⑨ おまつりに行った。 妹が行った。 友達と会った。 楽しかった。	⑩ おまつりに行った。 金魚が3匹すくえた。 かわいかった。 楽しかった。

**コメントの追加 [泉4]:** 「こと」「まあまあ」「やばい」等、曖昧ないかたや話し言葉を使いません。これは、大学で課されるレポート、ゼミでの発言についても同じです。

**コメントの追加 [泉5]:** この行数は400字詰め原稿用紙(20字×20行)1枚で小論文を書く際の分量です。字数まで決まっていると行って窮屈に感じるかもしれませんが、これくらい書けばよいという目安と考えましょう。

**コメントの追加 [泉6]:** 「なか」つまり具体例を書くので、感想や意見は書きません。事実を書く段落と考察や意見を書く段落を分けると、読み手に伝わりやすくなります。

具体例に「うれしかった」と書き、「まとめ」となる考察にも「うれしい経験だった」と書き、結論に「うれしいと感じる行動を今後もとりたい」と書いたとしたら、文章全体で「嬉しい」を連発してしまい、なぜ嬉しいのか、何が嬉しいのか、意見の根拠は何か分からない自己中心的な文章になってしまいます。

**コメントの追加 [泉7]:** 答えはDです。それ以外は論理的につながりません。

## 2 一段落にキーワード（一段落一事項の原則）

段落には中心となるキーワードや中心文があります。一段落にその一つのキーワード（主要語句）について書くと、内容がすっきりして読み手に分かりやすい文章になります。

キーワードや中心文は、段落の始めの方に書くと、より分かりやすくなります。段落の最後に位置づける書き手もいます。

教科書の「キーワード表を作る」の頁を読んで、キーワード表の作り方を確認しましょう。小論文の書き方はこのやり方ではありませんが、まず、基本となるこの書き方で書けるように練習しましょう。

### 〈キーワード表例〉

まとめ	なか2	なか1	(まとめの表) 食事作り 新聞取り 食器洗い 風呂掃除 ゴミ出し くつならべ (例) 食器並べ (なか) 【文章構成表】
めんどうである	食器洗い	風呂掃除	

### 〈キーワード表〉

上の例を参考にして、自分のキーワード表を作ってみましょう。テーマ「家の仕事」について書く小論文のキーワード表です。まとめの表ができたなら、筋が通っているかどうか確認しましょう。

まとめ	なか2	なか1	(まとめの表) 【文章構成表】 (なか)

**コメントの追加 [泉8]:** はじめに書くと、その後にキーワードについての説明が書かれるので、より一層分かりやすいです。ただし、文章の内容にもよるので、はじめから意識する必要はありません。

**コメントの追加 [泉9]:** 多くの人がこの基本の書き方で書けるようになりました。短い文章でも長い文章でも応用が効きます。

**コメントの追加 [泉10]:** 課題Bです。

### 3 確認のポイントは、一段落一キーワード

「まとめの表」では次の点を確認しましょう。

- ① 「なか1」「なか2」に別のことが書かれているか。  
⇒ 「なか1」が月曜日の食器洗い 「なか2」が土曜日の食器洗いでは同じ内容を何度も書く文章になってしまうので避けます。
- ② 「まとめ」に二つ以上の事項が入っていないか。  
⇒ 「大変だけど必要な仕事だ」「疲れるが家族の役に立つ」等、二つの共通性を書く人は、**どちらも**書いたのだから仕方がないといいますが、これでは何を言いたいのかわかりません。

**コメントの追加 [泉11]:** 一つの小論文で書けるのは一つの結論です。「これも正しいがこれも捨てがたい」というのは、両方を大事にしているようで、実はどちらの内容も十分に述べていないのと同じです。

### 4 一次原稿は「まとめの表」の「言葉」を「一文にする」

教科書「一次原稿を書く」の頁を読みましょう。先ほどのキーワード表をもとに、**4文**の一次原稿を書きます。イメージとしては課題Aにあったような4文です。

例えば、課題Bの例になっている「まとめの表」をもとに書いた一次原稿は次のようになります。

まとめ	なか2	なか1
めんどうである	食器洗い	風呂掃除

なか1 毎日風呂掃除をしている。  
なか2 水曜日以外は夕食の食器洗いもしている。  
まとめ どちらの仕事もめんどうである。

ただし、これでは3文ですから、はじめに文章全体の概要を述べる文をつけます。

はじめ 私がしている家の仕事は主に二つある。

**コメントの追加 [泉12]:** これは決して小学生の作文ではありません。論理的な構成が整った文章の骨格が作れるかどうかのポイントになります。

これが一次原稿です。では、課題Bで作った自分の「まとめの表」をもとに**一次原稿**を書きましょう。

**コメントの追加 [泉13]:** 課題Cです。

この一次原稿をもとにして、1で示した文章構成表にあるように、2行、7行、7行、2行、2行で書くのが二次原稿です。

### 5 キーワード表から一次原稿を書く練習が大事

重要なのは、何度も練習して書き方を身に付けることです。課題Dとして、別のテーマでキーワード表を作り、一次原稿を書いてみましょう。課題Dのテーマは「**部活動**」です。

**コメントの追加 [泉14]:** 高校までに経験したものです。クラブ活動でもいいです。

今日はここまでとします。また**来週!**

**コメントの追加 [泉15]:** 課題Eは今日の学習のまとめと感想です。